

2026年5月19日

厚生労働大臣 上野 賢一郎 様

終の棲家「介護付きホーム」を考える議員懇話会  
会長 衆議院議員 平 将明

## 社会保障審議会委員への選任に関する要請

拝啓 時下ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。

平素より、介護保険制度の健全な発展に多大なるご尽力を賜っておりますこと、心より敬意を表します。

さて、来たるべき2027年度介護報酬改定、ひいては2040年を見据えた持続可能な介護保険制度の構築に向け、極めて重要な審議の場である社会保障審議会（介護給付費分科会・介護保険部会）の委員として、一般社団法人全国介護付きホーム協会（以下、介ホ協）の代表者を選任いただきますよう、要請いたします。

介ホ協が社会保障審議会に参画する意義などは以下のとおりと考えます。

### 1. 高齢者住まいに関する議論の発展

- ・現在の社会保障審議会の委員構成は、従来型の公的施設（介護保険三施設）や、訪問介護等を中心とする一般向け在宅サービス事業者の代表が参画する一方で、都市部の高齢者居住を支える中核であり、民間事業者の創意工夫が最も発揮される「介護付きホーム（特定施設入居者生活介護）」を代表する団体が不在という現状があります。
- ・有料老人ホームは増加を続け、利用者数は約61万人、介護給付費は約6,800億円（サービス別構成比6.08%）となり、日本の超高齢社会が進むべき方向性の議論に不可欠な存在となっています。介ホ協の参画により、多様化する高齢者の「住まい」に関する政策を、より実効性のあるものに発展させることが期待できます。

### 2. 品質を伴った生産性向上のノウハウ・エビデンス提供

- ・深刻な介護人材不足という課題に直面する我が国において、介護保険制度の持続可能性を確保するためには、介護事業者による「品質を伴った生産性向上」の徹底が大変重要なテーマとなります。
- ・介ホ協の会員企業は、テクノロジー・デジタル・データ・AI活用の最前線における実証データと知見を有しています。これまでも国の実証事業に参加し、生産性向上推進体制加算や3:1を超える人員配置基準の特例の創設に貢献するなど、民間の創意工夫による新たな取り組みを進めています。今後も必要なエビデンスを提供し、生産性向上による原資創出と処遇改善の好循環モデルを具体的に提案するなど、建設的な政策提言を実施することが可能です。

### 3. 社会課題解決に貢献する活動の推進

- ・介ホ協は、公益に資する活動を推進し、社会的責任を果たしながら、政策提言を実施している実績があります。具体的には介護人材不足に対応する介護の魅力発信について、技能五輪への参加や出張授業の講師派遣を開始しているほか、福祉避難所を提供するなど、国や自治体と連携し、社会課題解決に資する活動も積極的に展開しています。
- ・また、国の会議体への対応についても、「社会保障審議会介護分野の文書に係る負担軽減に関する専門委員会」や「有料老人ホームにおける望ましいサービス提供のあり方に関する検討会」への参画実績があります。

以上の理由から、介護給付費分科会・介護保険部会の委員として、介ホ協より代表者が参画することは、審議の質を一層高め、より実態に即した、真に国民のための制度改革の実現に貢献できるものと確信しています。

日本の介護の未来を左右する重要な局面に、社会保障審議会への介ホ協代表者の選任につきまして、特段のご配慮を賜りますよう、要請いたします。

敬具